

.....◇.....◇.....◇.....◇.....◇.....
 当日は、正会員、特別会員、賛助会員のメンバーに加え、通商産業省、歴代理事長、日本ドラム缶更生工業会代表、マスコミの方々等をお招きしましたが、出席者134名が、和気あいあいとして新年の挨拶と活発な交流が行われ、懇親を深めました。

第3回AOSD ムンバイ国際会議開催さる

世界12か国から127名の参加者を得て開催されたAOSD (Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers, アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会) の第3回AOSDムンバイ (ボンベイ) 会議は、2月16、17日の2日間のセッションを踏まえ、2月17日(火)の山口AOSD会長による決議及び勧告採択後、翌日2月18日(水)のBalmer Lawrie社ドラム缶工場訪問、2月19日(木)のムンバイ市内観光で全ての行事を予定通り滞りなく終了し、盛況裏に閉幕しました。

第3回ムンバイ会議の結果を下記の通りご報告いたします。

【会議の概要】

- (1) 会議テーマ：アジアにおける鋼製ドラムの時代 (Era of Steel Drum in Asia)
- (2) 開催期間：1998年2月15日(日)～2月19日(木)
- (3) 開催場所：タージ・マハル・ホテル
(ボンベイ湾に面し、インド門の前にある、ムンバイで最も格式の高いホテル)
- (4) 会議議事：①AOSD総会 (開会式、来賓挨拶他)
②各国の市場動向——9か国より報告。
(別途更生缶2件)
③技術テーマの自由発表——7か国より発表。
④AOSD総会 (会議決議・勧告他)
- (5) 参加者：12か国127名

【会議議事の概要】

第1セッション：市場動向

オーストラリア、日本、インド、韓国、シンガポール、フィリピン、中国、台湾、スリランカの9か国から、市場動向、競合品の動向等について報告がありました。また、インド及び日本の更生缶業界の現状についての報告もありました。

日本からの発表は、次の2件です。

1. 日本におけるスチール・ドラム及びペールの将来展望
日鐵ドラム(株) 安達社長
2. 日本に於ける更生缶業界の現状
日本ドラム缶更生工業会 田中会長

第2セッション：技術関係

1. 表面処理及び塗装
インド コンサルタント S.S.アルワリア氏
2. ドラム缶製造工程の自動化
日本 協和容器(株) 松本弘氏
3. 内面塗装の仕様及び技術
シンガポール リーム(ファーイースト)社 T.Y.J. タン氏

4. 鋼製ドラム塗装表面処理
韓国 インスン社 K.柳氏
5. ペール缶用新素材としてのアルミニウムめっき鋼板
日本 (株)ユニコン 田邊社長
6. 有限要素モデル及び新コンパウンドを使用したガスケット性能の最適化
オーストラリア マッケイ社 G.ウイルソン氏
7. ドラム業界の革新的動向及び環境保護要素
インド プレミアグラインダー社 D.サッカー氏
なお、会議の前日、2月15日(日)に開催されたAOSD正副会長会議で以下の通り、合意し、会議期間中に開催されたAOSD総会で報告、承認されました。

- 1) AOSD副会長候補者選出
AOSD副会長候補者として、インド、B.O.Singh氏、韓国、K.柳氏、シンガポール、Chou Li氏を選出した。
- 2) AOSDの会則について
AOSDの会則について討議し、以下の通り合意した。
(1) 会員の登録について (会則 第4条)
AOSD会員を確定するため、AOSDメンバーの登録制度を導入する。
(2) 会費について (会則 第5条)
会費はこれまで同様、当分の間設定しない。即ち、JSDAが必要費用を負担する。
(3) 会長と事務局について (会則 第6条)
現在の会則 第6条は次の第4回韓国会議まで、JSDAがAOSDの会長国となり、AOSDの事務局もJSDAが務めることになっているが、各国の工業会設立が遅れていること、及び会長国の経済的負担を考慮し、第4回韓国会議後、6年間、即ち2007年まで、JSDAがAOSDの会長及びAOSD事務局を担当する。
(4) 各国の生産本数の報告
AOSD各国の活動を明確にするために、今後、各国の生産本数(歴年)実績を毎年、AOSD事務局に報告する。
(5) 第4回AOSD会議の場所と時期
第4回AOSD会議は2001年4月、韓国の慶州(Kyung Ju)で開催する。

JSDA(日本ドラム缶工業会)は、このような国際交流を通じて世界各国の情報を集め、また世界中の同業者との交流を深めることで業界の向上と発展を目指しております。関係各位のより一層のご支援をお願い致します。



平成9年(歴年)出荷実績まとまる

— 200ℓ缶 前年比で7%の増加 —

平成9年(1月~12月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比%
缶種								
200 ℓ 缶		2,024 (109.9)	9,327 (106.2)	792 (99.2)	144 (103.1)	413 (129.5)	12,700	107.1
ペール缶		13,283 (100.8)	10,973 (102.3)	841 (79.8)		797 (106.4)	25,894	100.7
100 ℓ 缶		10	196	2		2	210	114.1
50 ℓ 缶		微	301			19	320	110.3
アス缶型		15	10				25	147.1
その他容量缶		3	647	1	9		660	93.4
200 ℓ	亜鉛鉄板缶	9	102	5	1	5	122	100
	ステンレス型		17				17	94.4
	小計	9	119	5	1	5	139	99.3
中 小 型	亜鉛鉄板缶		237				237	107.7
	ステンレス型		5				5	100
	小計		242				242	107.6
合計		15,344	21,815	1,641	154	1,239	40,190	102.7
構成比		19.4	70.5	5.7	1.0	3.4	100.0	

平成9年歴年(1~12月)の出荷実績は、左表に示す通り、200ℓ缶については、前年比107.1%と大幅アップになった。

この主な要因としては、①化学向けで、エチレン生産増に伴う各種誘導化学品が秋口まで順調に伸びた他、②石油向けで、潤滑油が堅調であったことに加えて、プラスチックドラムからスチール製への切替えの動きや③ナホトカ号重油流出回収用のスポット需要もあり、伸び率を大幅に押し上げた、ことなどが考えられる。

また、ペール缶については、前年比100.7%と微増となっているが、これは化学向けは102.3%の伸びを示したものの、塗料向けが減少した等の理由により、全体で低い伸びにとどまったものとみられる。

(注) 1. 200ℓ缶、ペール缶の下端()は、前年比。
2. 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

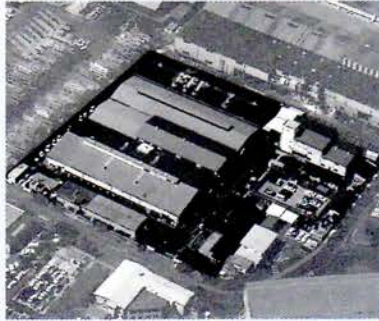


インドでは人が多いことはつとに有名だが、車もむちゃくちゃ多いことはあまり知られていない。インドの大都会ムンバイ(ボンベイ)では、古くて傷だらけの車が芋を洗うように渦巻いている。サイドミラーなどすぐふっつんでしまうので、はじめからつけていないし、外車はミラーを折りたたんで走っている。走行車線などあらばこそ、対向車線ですら空

いていけば当然のようにつっこんでいく。前の車が邪魔なら警笛を鳴らすのがエチケットで(バスやトラックなどの後部には「Horn Please」と大書してある)、町中がピーピーと喧騒の渦。そのおしあいへしあいの中を、何と、人間が、牛が、ラクダが、悠々と車をかき分けて歩いている。まさに壮大なる矛盾と混沌ノ

しかしインドという国の凄いところは、こうした混沌を全てあるがままに受け入れているところにあるのではないか。わ

れさきにと突っ込む車とその間を平然と歩く人や牛、活気に満ちた町のそここにぼろを纏ってねころがり物乞いをする貧民。そうした全てを、「排除」の論理によって「整理」し性急に「秩序」や「美観」をもたらそうなどは決して考えず、まずあるがままを容認し、その上で全体として一歩一歩向上していけばいいのだ。そう考えて、悠久の大地に育まれた価値観、いや世界観の圧倒的な違いに絶句する思いであった。(中川義幸)



株式会社
ユニコン

- ユニバーサル（あらゆる用途に適した）
- コンテナ（容器をとおして）
- サービス（社会に貢献する）

という創業の理念のもと、ペール専門メーカーとして高品質の製品を造り続けてまいりました。

お蔭さまで平成9年には創立30周年を迎えることができました。これを機に、より良い品質のペール缶とサービスを提供できるよう、社員一同決意を新たにしています。

今後とも、従前にも増したご指導、ご鞭撻をおねがい申し上げます。



エノモト工業
株式会社

昭和9年ドラム缶用口金の製造を開始して以来60有余年、日本国内はもちろん海外のお客様に品質の良いドラム缶用口金を提供させていただいています。

1995年4月にはインドネシアのジャカルタ近郊に、東南アジアを中心とした市場にドラム缶用口金を供給する拠点とした製造販売会社を設立しました。

本社工場においては、1997年1月に品質保証システムであるISO9002の認証を取得し、引き続いてインドネシアの工場も1997年7月に取得いたしました。

ドラム缶の重要部品である口金について、飽くなき品質向上と、お客様のニーズに即応出来る体制を構築しています。引き続きご愛顧下さいますようお願い申し上げます。

〈賛助会員〉

エノモト工業(株) 三恵マツオ工業(株) 丹南工業(株) 株大和鐵工所
三喜プレス工業(株) 株城内製作所 東邦工板(株) 株水上工作所

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371


 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座9-11-11 ☎ 03-3574-0711


 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601


 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511

 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式会社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.18(平成10年3月14日発行)

発行人 ドラム缶工業会
事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。